

2024.02.29

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行  
TEL083-924-2113 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」

○日時：3月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：幼児 ○定員：10組程度  
《2月のおはなし会で使った本》

『ぴっかぴかいいきもち』 荒木文子/脚本 童心社 2017.11

『パフェをつくらう！』 新井洋行/作 ほるぷ出版 2018.9

『名作で楽しむかわいいペーパーサート』 井上明美/編著 自由現代社（発売） 2016.12

『わらべうたあそび120』 阿部直美/著 ナツメ社 2015.3

◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

&lt;絵本-乳幼児から&gt;

『ミニカーたんけんたい』 関根知未/作 アリス館 2023.12 ¥1100

ぼくたち、ミニカーたんけんたい。パトカーやスポーツカー、トラックにこうじしゃりょうたち、12だいみんなでおうちたんけんにしゅっぱつ！いぬのあしのトンネルをくぐったり、ふとんのうえをはしったり、ピアノをならしたり。えのぐであそんでよごれたら、ねずみさんにあらってもらって、そろそろおへやにかえろうか。ミニカー視点で、家の中がいつもと違って見える絵本。

&lt;絵本-3, 4歳から&gt;

『みんなのいえ』 たしろちさと/著 文溪堂 2023.12 ¥1500

ふぶきのなか、まちはずれのだれもすんでいないいえにたどりついたひとりのたびびとは、ひとやすみするうちにこのいえでくらしはじめた。きせつがめぐるとにべつたびびとがやってきては、いっしょにくらすようになる。みんなではたけをつくり、やねやかべをなおし、あれていたいえはすこしずつすみやすくなっていく。「わが家」をとりまく日々の確かな営みを描いた絵本。

&lt;絵本-5, 6歳から&gt;

『しゃぼんだま』 小林実/ぶん 林明子/え 福音館書店 2023.12 ¥1000

すとろーにしゃぼんみずをつけてふくと、しゃぼんだまができる。おおきいしゃぼんだまをつくるには、いきのふきかげんやすとろーのふとさ、しゃぼんみずがだいじだ。いろいろなくふうをためてごらん。写実的な色使いと易しい口調で科学遊びへの興味を導く絵本。初出は月刊絵本「かがくのとも」1975年4月号。林明子の絵本作家デビュー50周年を記念した期間限定復刊。

『パパはたいちょうさんわたしはガイドさん』 ゴンサロ・モウレ/作 マリア・ヒロン/絵 星野由美/訳 PHP 研究所 2024.1 ¥1700

めのみえないパパと、すこしみえるわたし。ふたりにとって、まちはひかりとかげとおとのジャングル、くるまはジャガーやライオンのよう。おたがいを「ガイドさん」「たいちょうさん」とたよりにしながら、てをつないでがっこうまであるくこのじかんが、わたしはいちばんすき。視覚に障害のある親子の心の交流が、ふたりの内側に映る色鮮やかな世界を通じて描き出される絵本。

&lt;絵本-小学校中学年から&gt;

『ママたちが言った』 アリシア・D・ウィリアムズ/文 ブリアナ・ムコディリ・ウチェンドウ/絵 落合恵子/訳 クレヨンハウス 2023.12 ¥2200

ジェイはアフリカ系アメリカ人の少年。家族や友だちに囲まれて楽しく暮らしていたが、成長するにつれて両親や祖父母から「群れて遊んではいけない」「フードをかぶってはいけない」といった忠告を受けるようになる。それらは差別から命を守るために、彼らが学ばざるを得ない理不尽なルールだった。立場に関わらず、誰にとっても他人事ではない差別の実態をリアルに映す絵本。

&lt;読み物-小学校低学年から&gt;

『図書館のぬいぐるみかします!』 シンシア・ロード/作 ステファニー・グラエギン/絵 田中奈津子/訳 ポプラ社 2024.1 ¥1300

黒いおさげのアイビーは、かつてアンが子どもの頃に可愛がっていた人形。アイビーは成長したアンに箱にしまわれる。月日がたちアイビーは、図書館司書になったアンに、図書館で本と一緒に貸出できる〈ブック・フレンド〉として本棚上に並べられる。人形のアイビーの視点で、新しい家族にだんだんと心を開いていく女の子との時間やぬいぐるみ仲間との絆が温かく描かれる物語。

&lt;読み物-小学校中学年から&gt;

『パパがしげみになった日』 ヨーケ・ファン・レーウエン/作 野坂悦子/訳 岡本よしろう/絵 ほるぷ出版 2023.12 ¥1400

少女トダは菓子職人のパパと二人暮らし。けれど戦争がはじまってパパは兵隊になり遠くの戦地へ行くことに。残されたトダは避難者を送るバスに乗り別に暮らすママの町へ向かうが、道中には様々な人との出会いと困難が待ち受けていて…。戦争に巻き込まれ余儀なく避難する少女の過酷な状況が、おとぼけなトダの語り口調と山口県出身画家の描く挿絵でコミカルに描かれる物語。

『マリはすてきじゃない魔女』 柚木麻子/著 坂口友佳子/絵 エトセトラブックス 2023.12 ¥1200

11歳のマリは気ままに特大の魔法が使える魔女。祖母モモのような、人間の役に立つ「すてきな魔女」になることを求められるが…。魔法が使えない母ユキ、その妻で優秀な魔女グウェンダリン、性に違和感を持つ友達レイ等、個性豊かな登場人物に囲まれながらもものびのびと過ごす少女の物語。誰もが自分らしく生活することやマイノリティについて考えるきっかけとなる1冊。

&lt;読み物-小学校高学年から&gt;

『インシュタインをすくえ!』 コーネリア・フランツ/作 若松宣子/訳 スカイエマ/絵 文溪堂 2024.1 ¥1700

2020年2月29日に12歳の誕生日を迎えるエミリーはクイーン・メリー号に乗船しニューヨークへ向かうはずが突如1913年の豪華客船インペラートル号にタイムスリップしていた。同じく現代からきた男の子達と元の時代に戻ろうとするが、そのためにはあの天才アインシュタインの力が必要で…。実際に起きた出来事と作者の想像した出来事が入り混じるスリリングな物語。

**『わたしに続く道』 山本悦子/作 佐藤真紀子/絵 金の星社 2023.11 ¥1500**

リイマは単身でケニアに帰国したマサイ族の父と日本人の母の間に生まれた少女。母と再婚した日本人の新しい父と義祖母、弟達と暮らす新生活が始まる。同級生や親戚の「黒人」「人種差別」などの言葉に複雑な思いを抱きながら過ごす。義祖母に誘われ実父の故郷であるケニアへ旅行する中で新たな価値観や考え方に触れる。自分のルーツや存在について向き合う少女の成長物語。

**<読み物—中学生から>**

**『私が鳥のときは』 平戸萌/著 河出書房新社 2023.11 ¥1650**

蒼子は中3で受験生。夏休み直前、母が元同僚のバナミさんを家に「さらってきた」せいで、蒼子の生活のペースは変わってしまう。蒼子の味方は塾で同級生のヒナちゃんだけだったが、ひょんなことからバナミさんも一緒に受験勉強に励むことに。少女と元少女のひと夏の成長物語。第4回氷室牙子青春文学賞大賞の受賞作(加筆・修正した表題作と、書き下ろし長篇を収録。

**<ノンフィクション—小学校低学年から>**

**『ガウディさんとドラゴンの街』 パウ・エストラダ/作 宇野和美/訳 教育評論社 2023.12 ¥1800**

白いひげのガウディさんは実は有名な建築家。彼の仕事に打ち込む一日を描く。波うつシルエットの集合住宅カサ・ミラ、現在もまだ建築途中の巨大な教会サグラダ・ファミリア等が柔らかなタッチの絵でありながら忠実に表現されている。彼が作った数々の建築物は世界遺産に登録されている。バルセロナを中心に活躍したスペインが誇る天才建築家アントニ・ガウディの伝記絵本。

**『これはなんのつぼみかな』 1 多田多恵子/監修 阿部浩志/文 汐文社 2023.11 ¥2500**

花の種類によって様々な色や形があるように、つぼみにも様々な特徴がある。つぼみの写真の色や形から「これはなんのつぼみでしょう？」と問いかけながら読み進める図鑑。巻末に紹介した本の開花する時期や特徴についての掲載あり。シリーズ全4巻。1巻は桜やチューリップ、アジサイなど校庭や花壇で見られる身近な花を取り上げる。2巻以降は継続して発行。

**<ノンフィクション—小学校中学年から>**

**『おいしく!きれいに!魚の食べかたずかん』 1 小倉朋子/監修 汐文社 2023.11 ¥2500**

一緒に食べる人たちが嫌な気持ちにならないように、気を付けないのが食事のマナー。その中でも魚の食べ方について紹介する。魚の食べ方の基本から上手な食べ方、箸の持ち方までをイラスト等で解説。料理する前の魚の姿やそれらの魚の生息地や旬、漢字などの豆知識も掲載。シリーズ全3巻。1、2巻では塩焼きや干物などの和食、3巻ではエビフライなどの洋食を取り上げる。

**『松尾芭蕉』 藤田真一/監修 ほるぷ出版 2023.12 ¥3000**

江戸時代に活躍した俳人松尾芭蕉は、現在の俳句の基礎を構築したとされる。芭蕉の生涯や代表作「古池や蛙飛びこむ水のおと」等や「おくのほそ道」の旅の様子などについて豊富な資料やイラストで紹介する。俳句のルールや季語の例、俳句に関連する言葉についても分かりやすく解説。巻末には、芭蕉をさらに知るための関連文献や施設の紹介、掲載内容の出典の一覧あり。

**<ノンフィクション—小学校高学年から>**

**『ルビーの一步』 ルビー・ブリッジズ/著 千葉茂樹/訳 あすなろ書房 2024.1 ¥1300**

1960年、6歳のルビーは白人だけが通う学校に入学する全米初の黒人に選ばれる。登下校は連邦保安官に護衛されるもその道中では、怒鳴り声や物を投げつけられる。ルビーの学校生活や彼女を取り巻く人々の過酷な状況が描かれる。人種差別に立ち向かう少女からの「平和の手紙」。当時の様子を写真や注釈の中で分かりやすく紹介する。著者はアメリカの公民権運動家。

**『10分でおもしろい源氏物語』 [紫式部/原著] 時海結以/著 山本淳子/監修 世界文化ブックス 2023.12 ¥1400**

1000年前に書かれたおおよそ百万字の大長編が、小学校高学年から読めるようにやさしい現代語訳で再編され、親しみやすいイラストと一緒に楽しめる。全54帖を1話が10分程度で読める6話で構成。平安当時の人々の暮らしぶりや考え方などについての解説、登場人物の関係図もあり、物語の理解を深める一助となる。古典の名作の入門としておすすめの1冊。

**<ノンフィクション—中学生から>**

**『弟は僕のヒーロー』 ジャコモ・マツァリオール/著 関口英子/訳 小学館 2023.12 ¥1000**

2015年にダウン症の弟と撮影し、YouTubeに公開した動画『ザ・シンプル・インタビュー』が世界中で話題となった著者は、本作の出版当時19歳。一緒に遊べる弟ができたこと知って大喜びをした5歳から、思春期を経て、兄弟で撮影した動画公開までの家族の葛藤と愛にあふれた日々を描いたノンフィクションは、著者の処女作。映画化され2024年1月から全国公開中。

**<研究書>**

**『お話について』 松岡享子/著 東京子ども図書館 2023.12 ¥1400**

2022年1月に亡くなられた東京子ども図書館名誉理事長・松岡享子氏が、東京子ども図書館設立10周年を記念し、1984年に行った二つの講演「お話について」「お話のたのしみを子どもたちに」を収録。声に出してお話を読むことの意味を問い直している。1996年初版のシリーズ名と一部表記を改め、装丁を一新した新版。巻末には引用・参考文献の書誌事項を掲載。

**<紙芝居>**

**『まんまるまんまといかいがい』 荒木文子/脚本 久住卓也/絵 童心社 2024.2 ¥1900**

ちびっこ忍者のまんまるは修行中。ある夜、お寺のおしょうさんのところへ、あんころもちを届けに行きます。ところが、お寺にいたのはお化けみたいな「いかいがい」。まんまるを応援して「いかいがい」をたおそう!参加型紙芝居、12場面。脚本の荒木文子氏はにんぎょうげきコロン団代表で、おはなし会に関する各種講座を全国で行い、「第6回右手悟浄・和子賞」を受賞。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→  
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>

